

The best relationship

第一学年通信 No15

～最高の仲間たち～



No13 の『あなたの意見』 7 3 投票箱 より

沖縄返還協定により、1972 年 5 月 15 日、アメリカから日本に返還され沖縄県が誕生しました。5 月 15 日、きのうまでと何が変わったのでしょうか、

Q：当時の沖縄で生活していた人々が、一番困ったことは何だと思いますか？

A：『お金のこと』

・沖縄県になった時、『ドル』から『円』に変わったから、それがたいへんだと思ったから。

確かにそうですね。きのうまで財布の中にあった『ドル』は、今日（5 月 15 日）からは使えなくなったのでしょうか？

沖縄の戦後史のなかで、お金の歴史ほど生活に密着した出来事はなく、沖縄の人々にとってとても感慨深いものでした。アメリカに支配されていた 27 年間に通貨の変更が 7 回もあったそうです。1945 年のアメリカ軍占領が始まった時は、日本円とアメリカ軍の B 型円軍票紙幣（B 円）が計画されました。



その B 円も 1958 年にはドルとの交換がなされます。ここから本土復帰まで、沖縄県民は通貨としてドルを日常的に使う生活を送ることになります。そして本土復帰後、ドルから円に換わりました。

自分たちの使うお金が、このように変遷するということは、現在では想像がつかないことですが、実際沖縄ではそうだったのです。例えば、1 ドルをもって映画を見にいき、帰りにそばを食べ、バスで帰るというような生活パターンがありました。このとき、それまで 1 ドル＝360 円だったものが 1 ドル＝305 円となり、大きな混乱が生じ、ドルショックと呼ばれました。

A：『自由がなかったこと』

・アメリカは、沖縄の人々を今まで住んでいたところから別の山の方に住ませるなどした。沖縄の人々は、したいことができなかったと思うから。

戦争で負けた後、支配されると聞くと、どうしてもアメリカの言うことが優先されて、何かを強制されるとか、自由がないイメージがありますね。実際はどうだったのでしょうか？

太平洋戦争中の 1945 年（昭和 20 年）4 月に沖縄本島に上陸したアメリカ（米）軍は、基地をつくり始めました。アメリカは、戦争が終わった後も占領を続ける中、沖縄が太平洋の平和を守るための大切な地点になると考えて、基地建設をさらに進めました。そのとき、沖縄の人々の家や畑などの土地が強制的に取り上げられたりすることもありました。

沖縄には、多くのアメリカ（米）軍基地があります。特に、米軍だけが使っている基地（米軍専用施設）は、日本にあるもののうち、その面積の約 70%が沖縄に集中しています。米軍基地の多くは、街の真ん中や近くにあるので、ショッピングセンターや公園、道路をつくることなど、沖縄の人たちにとって暮らしやすい街をつくるのが難しくなっています。

米軍の飛行機やヘリコプターの事故が起きたり、戦闘機（せんとうき）などの大きな音が原因で夜眠れなかったり、学校の授業での先生の声が聞きづらくなったりもします。



沖縄本島中部にある世界一危険といわれている
普天間飛行場（ふてんま）

また、米軍基地から飛行機などの燃料油がもれて川や海を汚し、沖縄の豊かな自然環境を壊してしまうなど、いろいろな問題が起きています。さらに、米軍の兵隊が起こす犯罪も大きな問題のひとつです。これらの問題は、沖縄の人たちの生活や自然環境に大きな影響を与えています。

日本に復帰した後も、多くの米軍基地が日本とアメリカの約束（日米安全保障条約）にもとづく基地として引き継がれ、沖縄には今でも変わらず多くの基地が置かれています。